

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人清友会		
事業所名	グループホームにこやか 若宮		
所在地	愛知県犬山市裏ノ門45番地		
自己評価作成日	平成30年1月8日	評価結果市町村受理日	平成30年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者個々の生活スタイルを尊重し、家庭的な雰囲気を感じて頂けるように努めている。 ・クリニック併設のため医療面での対応は充実している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2393400128-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成30年1月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、医療機関に併設されて運営されていることで、医療面での柔軟な対応が行われている。利用者の中には、医療面での支援が必要な方も生活しており、必要に合わせながら、医師、看護師による支援が行われており、母体の医療機関と連携した取り組みが行われている。併設事業所内には、多くの方が集うことができるスペースが確保されていることで、ボランティアの方が訪問した際には、行事を通じた利用者との交流の取り組みが行われている。行事については、同じ建物内にデイケアを併設していることで、デイケアの行事の際には、ホームからも利用者が参加することもあり、利用者にとっては、日常と異なった雰囲気を楽しむことができる。また、運営推進会議の際には、母体の医療機関の医師が出席しており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・スタッフ詰所に掲示してある。 ・毎月一回のミーティングにて理念の朗読を行っている。	利用者との「絆」を大切にした内容の理念を掲げており、ホーム内に掲示し、職員による支援の基本と考えている。また、年2回、職員で自己評価を行いながら、理念の実践につながる取り組みが行われている。	理念は職員による支援の基本である。職員間の理念を共有する取り組みについて、ホームの継続した取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・保育園、地域ボランティアの方が月に一度来所され交流している。	地域の方とは併設事業所とも連携した取り組みが行われており、併設のデイケアの行事の際には、ホームからも参加する交流が行われている。また、保育園や近隣の児童館との交流の機会もつづられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・運営推進会議にて話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・参加して頂いた方の意見をサービスに活かす様に取り組んでいる。	会議の際には、法人代表者もある医療機関の医師も出席しており、医療面での情報交換が行われている。また、写真を活用しながら話し合いが行われており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	・運営推進会議、市の窓口、電話等で連携を図っている。	市担当部署とは、ホーム管理者の他にも、関連事業所や運営法人を通じて情報交換等の取り組みが行われている。また、市の介護相談員がホームに訪問しており、情報交換等の機会がつけられている。	併設している居宅介護支援事業所が閉鎖になっているため、情報交換の機会が減っている。ホーム独自の取り組みを増やして行くことにも期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・施錠に関しては夜勤帯で一時的に行う事があるが、それ以外は行っていない。 ・身体拘束を行わずケアしている。	ユニットの出入り口の前に階段があることで、出入り口は施錠しているが、裏口から利用者が出ることが可能であるため、職員間での見守りが行われている。また、日常的にも管理者による注意喚起等の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・常に意識し防止に努めている。また、ミーティングで不適切なケアについて話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・権利擁護は学習機会がなかったため、理解に欠ける。今後毎月の職員勉強会で学習し活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・ご家族来所時、必ず声を掛け意見・要望をお聞きし職員間で共有し、運営に反映出来る様に努めている。 ・運営推進会議においても意見等を尋ねている。	ホームの行事の際には、家族にも案内を行い、交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも、医療機関の窓口でも対応している。また、運営推進会議の資料を活用した便りの作成が行われている。	ホームの行事に家族の参加が得られていない現状が続いている。家族へのホームからの継続的な働きかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・月一回のミーティング、会議、個人面談等で聞く機会を設け反映させている。	ユニット毎に毎月の職員会議や日常的なミーティングが行われており、職員からの意見等は、管理者が把握し法人に報告され、運営への反映につなげている。また、管理者による職員面談の取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・認知症介護実践者研修を受ける機会を設けている。 ・毎月一回勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・職員が他の事業所の方と接する事がない為、出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・不安、要望が話せるように個々に沿ったコミュニケーションを図り、信頼関係を築くように絶えず努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・意見、要望を聞き信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・必要としている事を優先に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・生活を共にする家族という意識を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・居室に思い出の物や写真を飾り、家族を意識出来る様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・面会に来られた際に感謝の気持ちと、また来て頂ける様な声掛けを行っている。	利用者の中には、近隣から入居した方もあり、外出や行事等を通じて交流に機会が得られている。近所の美容院を利用することで、馴染みの方との交流にもつながっている。また、家族との外出に機会が得られ、一緒に過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・レクリエーションや会話に職員も関わる事で、孤立しないよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・お見かけした時に、声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・個々の生活リズムを尊重し、思いや意向の把握に努めている。	職員間で利用者の把握を行い、毎月のユニット毎にカンファレンスを実施しながら、利用者の意向等が日常の支援につなげる取り組みが行われている。また、アセスメント職員にも参加してもらうことで、利用者の細かな把握にもつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・家族からの細かな情報収集やご本人からお聞きしたりする事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日々のケアでの気づき等を介護記録し、スタッフが現状把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・できていると思う。	介護計画については、利用者の状態変化等に合わせて見直しが行われている。モニタリングについては、職員にも参加してもらいながら3か月での実施が行われている。また、モニタリングを通じた日常的なチェックにも取り組んでいる。	定期的な介護計画の見直しが行われていない現状があり、1年を超えることもある。より短期間での見直しを行うことで、家族との面談を増やす取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・申し送りや介護記録にて職員間の情報共有を行い実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・個々の状況やニーズに応じた支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・支援できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・クリニック併設の施設のため常に医師・看護師が支援している。	母体の医療機関と併設していることで、利用者の健康状態に合わせた医療面での支援が行われている。他の医療機関への受診支援も行われており、情報提供も行われている。また、医療機関の看護師による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・行えている。	利用者の段階に合わせた家族との話し合いの機会がつけられており、ホームでの看取り支援を見据えた対応にも取り組んでいる。母体の医療機関の医師による説明等の対応も行われている他にも、随時の職員への指導も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変時対応マニュアルがある。 ・勉強会で学んだが訓練がないため実践力は身に付けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・避難訓練を行っている。 ・防災自主検査を毎月一回行っている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認が行われている。建物全体の災害対応を行う職員が配置されていることで、併設の事業所間での連携が行われている。また、備蓄品については、ホーム内での確保が行われている。	併設事業所でもあるため、地域の方との協力関係は現状行われていない。地域の方との接点でもある運営推進会議を活かしながら、地域の方との関係が深まることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・個々に合わせた声掛けや対応をしている。	利用者の尊厳に配慮した職業倫理や「仕事をする心構え」等を記載した文書を職員に配布しており、職員の意識向上につなげている。日常的にも、職員による利用者への対応で気になった際には、管理者による注意喚起等が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・コミュニケーションを密にし、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・可能な限り個々のペースを大切にしている。 ・行動の制限や強要しないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・着る服を選んで頂いている。 ・衣類が汚れたらその都度、替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・職員と会話しながら食器やテーブル拭きをされています。 ・個々の好みを活かしたメニュー作りに努めている。	昼食は医療機関の厨房から提供されているが、朝食と夕食については、ホーム職員により調理されている。利用者の身体状態に合わせたミキサーやトロミ等の対応が行われている。また、デイケアでの行事食の際には、ホームからも参加することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・減塩の調味料を使用している。 ・個人の体調に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・自立している方以外は介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導を行っている。	利用者全員の排泄記録を残しながら、日常的に職員間で情報を共有し、トイレへの排泄につなげている。医師、看護師とも排泄に関する医療面での連携も行われている。また、日常の食事等を通じた、排泄状態の維持にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・水分量をチェックし適度な運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・入浴予定表はあるが、体調・本人の意思により柔軟に対応している。	週2回の入浴が行われており、一人ひとりがゆっくりと入浴する取り組みが行われている。ホーム内には特殊浴槽がある他、併設事業所に寝浴があることで、重度の方にも対応している。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・空調に配慮を行い、個室で安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬剤の用法、用量、注意点が理解し服薬支援できるよう薬剤情報がファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・レクリエーション、散歩、足浴等で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・ご家族と外出される方が多い。	日常の天候や状況等にも合わせながら、ホーム周辺への散歩や買い物以外にも、近隣にある美容院への外出支援が行われている。また、季節に合わせた花見や公園等への外出行事が行われている。	外出支援については、現状限られた範囲での実施となっている。少人数での外出支援を増やす等、利用者の状況等にも合わせた外出支援の実施にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・利用者は現金を所持していない。 ・ご家族から預り金という名目でお金を預かっており、必要時に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・毎日、掃除を行い清潔が保てるよう努めている。 ・季節の花を飾ったり、四季を感じられるフロアの壁飾りを行っている。	ユニットによりリビングの構造が異なっており、リビングや通路等の雰囲気も異なっている。利用者の過ごし方も異なっていることで、それぞれに合わせた支援が行われている。また、壁には利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用フロアにソファを置き、そこで座りお話しして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・使い慣れた物を持ち込んで頂き、している。	居室についても、ユニットにより雰囲気が異なっており、利用者に合わせて対応が行われている。利用者により、意向等に合わせた様々な持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の方があり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・トイレの場所をわかり易く大きな字で表示する等、安全で自立した生活が遅れるように努めている。		